

アンネの本の切り裂きに関連して、

アンネ・フランク・ハウス財団が書籍寄贈

3月8日、杉並区はアンネ・フランク・ハウス財団の訪問を受け、財団が発行する関連書籍の寄贈を受けました。この寄贈は、都内などの図書館で発生しているアンネの本を切り裂く被害のニュースに対応したもので、関連書籍は杉並区をはじめ被害のあった図書館に寄贈されます。

杉並区では、アンネ・フランクの記述のある書籍の引き裂き被害が、区立図書館13館中11館で確認され、被害冊数は121冊にのぼります。この被害については、近隣自治体の被害とともに、多くのメディアにより世界中で配信され、アンネ・フランク・ハウス財団（オランダ・アムステルダム）にも伝わり、財団が発行しているアンネ・フランクに関する豪華カタログ（図録）とアンネたちの隠れ家を模したクラフト製のミニチュアハウスの寄贈となりました。

3月8日午前11時、杉並区役所にアンネ・フランク・ハウス財団のヤン・エリック・ダブルマン教育プロジェクト部長が、財団が発行している関連書籍を寄贈するため訪れました。この訪問には、オランダ王国大使館のロヒア・ヘッキング一等書記官、福島県立医科大学の竹之下誠一副理事長など4名も同行。田中良（たなかりょう）杉並区長と武笠茂中央図書館館長が対応しました。

寄贈にあたり、ダブルマン部長は、「オランダのアンネフランクハウスと日本の関係は60年以上前から始まり、アンネの日記もたくさんの方々を読まれてきました。その日本で、どうしてこのような行為が起きたのかわかりませんが、この寄贈によって友好関係をより強固なものにしたい」と話しました。

本の切り裂き被害発覚後、本日のアンネ・フランク・ハウス財団やイスラエル大使館、そのほか全国の多くの市民からも、アンネに関する本の寄贈を受けています。

これらの本は80冊近くの数となり、現在は区立中央図書館（荻窪3-40-23）に、アンネ・フランクコーナーを設け、3月23日まで展示を行っています。

このコーナーでは、本日のアンネ・フランク・ハウス財団から寄贈されたミニチュア・ハウスと図録も展示して、来場者に事件のことや全国から届けられた善意を伝えていきます。



【問い合わせ先】杉並区立中央図書館：3391-4800

総務部広報課：3312-2111